

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「寄りそう心 つながる想い」の運営理念のもと、日々意識しながら実践に繋げています。事務所に掲示し、また定期的に研修を行い、意識づけの機会としています。	「よりそう心 つながる想い」の事業所理念は開設時からのものであるが、職員研修で毎年1回、理念の意味やこの事業所で大切にしたい事などを職員で話し合っている。管理者と職員は理念を大切に考え共有し、ベースにして事業所目標を立てている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に町内会長、民生委員、地区の消防団員の方に参加していただいています。定期的に発行される広報誌の回覧や地元の保育園児の慰問もありました。	年4回発行の広報誌「かのんだより」を地元の8地区の回覧板に入れてもらい、出来るだけ事業所が地域に溶け込んでいけるよう工夫している。事業所は開所6年目であり、今年の4月開設した隣接同法人の小規模事業所等と協力しながら少しずつ交流が増えている。管理者は「医療・保健・福祉を考える会」で、市役所・地域包括センター・各事業所等々の職員と共に健康懇談会等へ参加し、地域の方々との触れ合いを通じて地域密着型事業所についてを発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「医療・保健・福祉を考える会」に所属しており、定期的に行われる地域での健康懇談会で事業所の取り組み・実践等をお話させていただいています。定期的に広報誌の発行を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、近況報告や施設内での様子、取り組み等を報告しています。出席者からの情報や意見、助言をサービスの向上に活かしています。	運営推進会議は、同法人隣接事業所と合同で2ヶ月に1回開催されている。家族代表・市役所介護保険課・地域包括支援センター・民生委員・町内会長・地元消防団員等の参加を得ており記録が整備されている。	開催は定期的に行なわれている。しかし、各事業所や管理者からの報告場面が多くなりがちである。前回の外部評価でも改善点にあげられているが、今後は、出来るだけ提案された意見・外部評価時の自己評価や導き出された課題への実践状況を見てもらう等、具体的に実務的な意見交換がなされるよう期待される。また、各ユニット利用者の方が交代でのゆるやかな参加や、利用者家族がそれらの場所で委員の方との意見交換なども出来る環境の整備が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事や困った事はすぐに市役所の担当者へ確認、相談、指導していただいています。	市町村との連携は取れており、運営推進会議の記録は、市役所に届けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを整備しています。研修会を実施し、終了後にレポートを提出してもらい、振り返りと今後活かす取り組みをしています。	身体拘束禁止に関わるマニュアルがあり、研修が行なわれており、研修内容についての理解度を各自表現し記述している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止及び権利擁護マニュアルを整備しています。研修会を実施し、終了後にレポートを提出してもらい、振り返りと今後活かす取り組みをしています。	虐待の防止のマニュアルや権利擁護のマニュアルがある。今年は、法人全体で作成した「レセプショントレーニング読本」を基に「接遇」に関する研修を行なっている。	虐待に関する研修は、管理者が外部研修で受講されている。職場の中で、不適切な言葉かけや、ケアが行なわれないよう問題が起きた時、どのように対応するのか等、管理者が受けてきた研修等を具体的に職員に伝え、共有し、考え、虐待が見過ごされることのないよう伝達研修が実施される事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待の防止及び権利擁護マニュアルを整備しています。研修会を実施し、終了後にレポートを提出してもらい、振り返りと今後活かす取り組みをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧で分かりやすい説明を心がけ、理解・納得していただいた上で署名、捺印していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日々の関わりの中で声をかけ、意見や要望を聞くように努めています。ご家族には面会時や電話等で意見・要望を聞き取っています。事務所前カウンターに意見箱を設置しています。	意見箱は設置されているが、あまり意見は入らない現状がある。家族には毎月の便りと共に、面会時等のわずかな時間でも利用者の様子を伝え、ご意見や要望をいただき出来るだけ運営に反映したいと取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の各ユニット会議で意見交換を行っています。日頃の業務に関する事、提案などはその都度職員の率直な意見を聞いています。	1ヶ月に1回各ユニット会議を開いている。なるべく残業しないこと、研修や会議の時間は届け出を行ない超勤とする等、管理者は働きやすい職場を意識している。また法人が行なう「自己評価シート」を基に個別の面談を実施し管理者は職員の意見を聞き反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握しています。必要に応じて個別に面談の機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員から希望のあった研修に参加できるよう配慮しています。同法人内で研修委員会があり、研修会、勉強会を実施し参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市の事業所連絡会に参加しています。職員は外部での研修参加を通して同職種との交流を図っています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前やケアプラン作成時にご本人から意見や要望をお聞きし、安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族と連絡を取り合い、入居者様の情報やご家族の意見、要望をお聞きしています。要望はホーム内で検討し、できる限り実現できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居について入居者様の状態や気持ちを大切にしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや掃除、洗濯物たたみ等を一緒に行い、ご本人ができることを継続して行えるような支援を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の近況報告や何かあった時にはその都度状況をお伝えしています。毎月の様子を写真付きのお手紙でお知らせしたり、ご家族と一緒に楽しめる行事を行っています。情報を共有することで共に本人様を支えて行くよう努めています。	職員は利用者のアセスメントの内容を理解し、本人の生活歴や嗜好を確認しながら、家族と利用者と一緒に会食する機会を持つなど、家族の方が足を運びやすいよう訪問しやすいよう工夫し、毎月の手紙に日々様子を伝えている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人、近所の方等の面会はいつでもお越しいただけるようにしています。行きつけの美容院へ出かけたたり、ご家族の協力を得て自宅の仏壇参り、墓参り等支援しています。	それぞれの利用者の多様性や、本人の意思を尊重しながら、馴染みの美容室に出かける利用者への支援や、かかりつけ医院に出かけた帰りには、いつも家族とゆっくり外食をするのを楽しみにしている利用者もおられる。外泊は家族の協力で年末年始自宅に帰る利用者もいたが、冬は少なくなってきた。職員は家族や地域との関係が途切れないよう家族の協力を得ながら支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を見極めながら、必要時には職員が仲介役になり、入居者様同士が関わり合いながら生活が継続できるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じていつでも相談支援に努めるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が入居者様一人ひとりの思いや意向に注意を払い、日々の関わりの中でのコミュニケーションを大切にしています。日常の会話や行動、表情などからも思いや希望の把握に努めています。	センター方式の一部を使用している。「暮らしの情報」は入所時に家族から記入していただく形で、本人・家族の希望や意向を確認し職員で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、ご家族様から聞き取りをしたり、入居前に利用していたサービス事業所、担当ケアマネさんからも情報をいただいています。	センター方式の一部と「ちょうじゅ」のシステムで日常の記録をパソコン記録している。入居前の生活やサービス利用の経過等は、担当居宅介護支援専門員等々の情報を生かし、把握することで、「かのん」での生活が、居心地よく継続出来るよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護婦記録への記載により、一人ひとりの現状の把握に努めています。居室担当職員を中心にミーティング等での情報共有、検討をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には本人、家族、担当職員、計画作成が参加する担当者会議で検討し、意見交換を行っています。毎月1回担当職員がモニタリングシートを記入し、計画作成が総括を行っています。	モニタリングは担当職員により、毎月実施されている。日々の本人の状態や暮らしぶりなどの情報は「ちょうじゅ」のプログラムにリアルタイムで入力され、全職員が常に情報を共有できるようにシステム化されている。担当者会議においては、本人・家族・担当職員・計画作成担当者・管理者等の参加を得て介護計画が作成され、見直しは6ヶ月毎に実施されている。各フロアと事務所にパソコンが設置され、職員がいつでも閲覧、入力ができる体制が図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子、ケアについての実践等個別に入力し、職員間で情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のニーズに対応できるよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練に地域の方に参加していただいたり、地域のお祭りに声をかけていただきました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族からかかりつけ医か当施設の協力医療機関にするか希望をお聞きしています。ご家族の付き添いを基本としているが必要に応じて情報提供したり受診に同行しています。	利用者の多くは、本人、家族が希望する入居前からのかかりつけ医での受診となっている。家族による通院介助を基本としているが、家族の要望や本人の様態変化によっては必要に応じて職員が付き添って同行している。受診関係においては「医療と介護の連絡ノート」に本人の身体状況等が記載されており、医師からの所見においては「診療情報提供書」に記載され、お互いの協力関係が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在ホームには看護師がおらず、訪問サービスも利用していません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者と情報交換を行い、早期退院に向け、面会等での状態確認を行い、本人、家族の不安の軽減したり病院関係者との関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでできること、できないこと、入院が長期に渡った場合には退居となる旨、説明・同意を得ています。介護計画作成時や状態変化時に今後の支援について話し合っています。	重度化・終末期のあり方については、利用者の様態変化が生じ、医療行為が必要となった場合、事業所としては対応が難しいとして、入居前に本人・家族にできる範囲の説明をし同意を得ている。	昨年度、隣接する法人内の看護職員との連携により、看取りケアについて検討し重度化対応の為の介護技術、知識等の研修の取り組みを実施することが検討課題であったが、具体的取組について目標達成に至らなかった。地域密着型の役割りとして利用者が住み慣れた生活の継続が出来ることが求められている昨今、再度、具体的対応の取組を期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応についてのマニュアルを整備しています。消防署による救急救命講習を定期的に企画し、全職員が受講するようしています。	急変時・事故発生時の対応の為のマニュアルの整備がなされている。消防署協力の下、全員が救命救急のステップアップ研修を終えて、いざという時のかけつけチャートも整備され、救急時の対応に備えている。今後はマニュアル各種の見直しを定期的実施することにより、一層中味の充実したものになるものと思われる。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを整備しています。消防本部、地域の消防団立会いのもと、日中・夜間を想定した避難誘導訓練を行っています。災害備品、非常食も準備しています。	火災時の避難訓練については、日中・夜間を想定し、年2回実施している。防災(洪水・防火・地震・水害等)に関するマニュアルを整備しており、土砂災害については今後、計画を予定している。また防火に関する計画や各種マニュアルの中に「防災時 関係機関緊急連絡先一覧表」が綴じられ、行政との連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての研修を行っています。その場に応じてプライバシーに配慮した声かけ、対応を心がけています。法人全体での「レセプショントレーニング読本」を作成しました。	法人が「接遇こそ財産」として、人の尊厳やプライバシーについてを職員全ての意識を高めるため、常に携行できる「レセプション、トレーニング」読本を作成した。日数をかけて職員全員が研修を受け、日々の利用者との関わりの中で最も欠くことのできないものが人への尊厳・尊重である。いつの世にあっても変わることのない重要な事として職員に周知徹底が図られている。	
		日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からの声かけは入居者様に主体性を持っていただけるような形で行っています。日常のなにげない会話や仕草から思いを汲みとれるよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課に沿いながら、一人ひとりのペースや生活リズム、要望の把握に努め、その人らしく過ごしていただけるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様のそれまでの好みやこだわりを大切にしながら、その人らしいおしゃれや身だしなみができるよう支援しています。居室に洗面台があるので、いつでも身だしなみに配慮できる環境です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事作り、盛り付け、配膳、食器拭き、テーブル拭き等、一人ひとりができることを職員と一緒に行っていきます。職員も一緒に食事を摂り、楽しく食事ができるよう努めています。	食材配達業者の利用を始めて4ヶ月。その食材を利用して利用者と共に調理を行っている。メニューはバランス良く、写真入りで調理の仕方も献立と共に作られているため、味にバラつきがなく、食材にムダもなく利用できているが、それ以外にも事業所独自で追加したりもしている。利用者には米とぎや盛り付け、配膳など食事準備から下膳まで、利用者の力を借りながら共に楽しむ工夫をしている。食前には口腔体操も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態で提供しています。食事摂取量、水分摂取量のチェックを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様の状態に応じた方法で口腔ケアを行っています。コップや歯ブラシの洗浄、消毒も毎日行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表の記入により、トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりに合わせた排泄の介助を行っています。	利用者の気持ちを配慮しながら日々トイレでの排泄を基本とした支援に努めている。利用者の排泄パターンを把握し、全員がトイレでの排泄が可能となっている。現在の排泄レベルを落とさず、現状維持が継続できるよう自立の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常で体操をしたり、食事メニューの工夫をしています。主治医と相談し、下剤の調節をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の希望を尊重しつつ、週2回以上入浴できるよう配慮しています。家庭浴槽ですが、リフト浴にも対応しており、安全に入浴ができるようになっています。	入浴は週2回以上楽しめるよう努めている。気の進まない利用者には、毎日声掛けし無理強いせず、本人の希望に沿って入浴できるよう取り組み、回数には柔軟に対応している。家庭浴槽の天井にはリフトが設置され、今後、予想される重度化にも対応できるよう配慮された設備を備えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの習慣やその時の状態、希望に応じ休息する時間を設けてます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書きをファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしています。調剤薬局の協力により、内服薬は一包化され、名前、用法、内服する日の日付を印字してもらい、間違いのないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	些細なことでも本人様ができることを見つけ、好きなこと、得意な事をアセスメントし希望に添うような支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出や本人の希望に応じて買い物や行きつけの美容院へ出かけています。玄関は施錠せず、自由に屋外に出ることができ、散歩や気分転換に外出される入居者様もおられます。	天気の良い日は自由に屋外に出ることが出来、近隣への散歩を楽しんでいる。事業所脇には十分広い菜園もあり、野菜作りから収穫にと利用者の楽しみとなっている。また日常的にはとはいかないまでも利用者から希望があった時には、何時でも買い物支援ができるように対応に努めている。事業所では利用者の金銭管理をしていないため、買い物時は事業所が立て替え可能で買い物を楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは金銭管理はしていません。個人的に現金を持っている方もおり、買い物支援しています。ご家族が財布を確認しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話をかける援助をしています。手紙のやり取りは本人様の要望に合わせて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の状態に合わせてソファコーナーを設け、家具の配置やホールの装飾を工夫しています。夜間は安全面の観点から全消灯とはせず、廊下の照明を適度に間引き、安眠、安全確保に努めています。	事業所の平屋造りの広い空間には外からの陽射しも各方面から取り込まれ、明るく、ゆったりとした佇まいである。リネン収納庫や備品収納庫も整備され整理整頓されて心地よいものとなっている。今回の訪問時、共用スペースには利用者や職員の作品がクリスマスの雰囲気を出し、折々の季節が感じられ楽しさが伝わってきた。大きめのテレビは2ヶ所に設置され、利用者の座る位置が違っても全員が視れるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士、居室に行かれ話をされたり、ホール内のソファコーナーで寛がれたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力していただき、なじみの家具や使い慣れた物を持って来ていただくよう説明しています。本人様が安全に安心して過ごせる居室づくりに努めています。	ベッド・リネン類・チェストは備え付けとなっている以外は、本人、家族の希望で馴染みの家具等の持ち込みは自由となっている。利用者が自分らしく心地よく過ごせる居室作りが可能であり、外の眺めもよく解放的である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーであり、廊下には手すりが設置されています。トイレの場所が分かりやすいよう工夫しています。		